東陽　三十世　宏雲妙穎禅尼　本葬儀(謝辞)

本日は、導師・本宮老師様および関係各位の皆様方により、
東陽三十世　宏雲妙穎禅尼(故・西垣穎子様)の本葬儀がここに滞りなく
行われましたことに厚く御礼申し上げます。
本日は多くの檀家様も参列されましたが、本来ならばこの本堂に
上がっていただき、故人とのお別れをしていただくところですが、
コロナ禍のなか、やむを得ず本堂の外からのお別れとなりましたことを
ご理解いただきたく存じます。
東陽寺は、四百年以上の歴史がありますが、これまで幾多の困難を
乗り越えて、今日まで続いてこられたのは、故人も含め代々の
ご住職様のご尽力と檀信徒の皆様のご支援があったからだと
思います。
私事になりますが、二十七年前にわたくしの父が亡くなった際は、
ちょうど故人がご住職でおられた時でした。亡くなったのは平成六年
十二月二十七日の深夜、年末のことでした。
私にとって身内の葬儀は初めてであり、家族で相談の結果、年内に
区切りをつけたいとの希望から、二十八日通夜、二十九日葬儀と
ギリギリのところで設定しました。

翌二十八日に東陽寺に連絡したところ、早速導師として上田住職様をご紹介いただき、年内に無事葬儀を済ませることができました。
その後年明け早々にお墓の改修工事、四十九日の法要の準備等をてきぱきとご指示を頂き、大変心強かったことを覚えています。
お寺というのは、二十四時間三六五日対応しなければならず大変だと実感した次第です。
私は、転勤族だったため、それまではお寺に来る機会はほとんどなく、遠い存在だったように思っていましたが、これをきっかけに東陽寺との縁が深まり、以後、年回忌だけではなくお寺の行事等にも積極的に参加するようになり今日に至っています。
その後、住職の座を宰朋様に引き継がれてからはお会いすることもありませんでしたが、お元気にお過ごしと伺っておりました。
九十五歳という長寿を全うされ、お孫様である慶一方丈様への引き継ぎも見届け、安心して旅立たれたのではないかと思います。
最後になりましたが、私ども檀家一同、今後とも東陽寺のさらなる発展に寄与することをお誓いするとともに、故人のご冥福を心よりお祈り申し上げます。
併せて、本日ご列席の皆様方のご健勝を祈念して、御礼のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。